

P4D起動オプションによるログ管理

説明

Helix Coreサーバ起動時に、ログ出力オプションを指定して実行することができます。
基本的な設定方法を以下に記します。

ログ設定のオプション指定

監査ログ、およびサーバログの出力については下記オプションを使用します

-A	監査ログの出力と、出力先を指定します。
-L	ログファイルの出力と、出力先を指定します。

実行コマンド例

```
p4d -r /p4root -p 1666 -A /var/log/p4audit/audit.log -L /var/log/p4server/server.log
```

【実行結果】

[/var/log/p4audit/]に[audit.log]が作成され、監査ログが出力されます。
[/var/log/p4server/]に[server.log]が作成され、Helixサーバログが出力されます。



p4dコマンドの詳細については下記もご参照ください。

・ [「Helix Coreサーバ管理者ガイド: 基本」 - Helix Coreサーバ\(p4d\)リファレンス](#)

ログトレースのレベル指定

ログトレースのレベル設定については、"-v server=n"オプションでレベル指定をすることができます。

レベル

server = 1	各コマンドの起動情報を記録します。
server = 2	各コマンドの起動情報と停止情報を記録します。
server = 3	特定のコマンドに対して「計算終了」メッセージを記録します。
server = 4	クライアントに送信されたエラーをサーバログに記録します。

設定例1

```
p4d -v server=2 -L /var/log/p4server/server.log
```

設定例2

```
p4 configure set server=3
```



参照ページ

・ [「Helix Coreサーバ管理者ガイド: 基本」 - サーバ監視用の診断フラグ](#)
・ [Helix Server Trace Flags\(英文\)](#)

ローテート設定

Helixサーバの稼働を記録するため、ログファイルは次第に肥大化するため、OS機能によるローテート設定を推奨しています。

* Helix Coreサーバの稼働ログ(.log)については、Helix Core側でローテート設定することはできません。

* 構造化ログ(.csv)はHelix Core側でのローテート設定が可能です。



Linuxでのログローテート設定の一参考例を以下に記します。

logrotate.conf

```
log{
    missingok                #
    rotate 2                  #
    olddir /var/log/p4proxy/bak #
    size 1M                   #
    create 644 p4super p4group # [permission user group]
}
```